



## お辞儀—日本の美しい習慣

チャン ティ フェン  
TRAN THI HUYEN

私は二年前に実習生としてベトナムから日本にきました。来日する前に、日本について最初に教えられた事があります。それは日本のお辞儀の仕方です。「お辞儀の仕方を学ぶ事は早く日本の生活に慣れるようになる最初の第一歩です。日本語の勉強に集中する事はもちろん大切ですが。日本の文化と習慣を学ぶ事も重要です。日本は礼儀を大切にする国のため、日本人は人を見た目と話し方から判断するだけではなく、相手の態度も見て評価します。その中でお辞儀は非常に大切な行動です。日本に来たら、毎日お辞儀をしないとイケません。」と言われました。

お辞儀について調べました。「私は貴方を尊敬します。」「貴方は私にとってとても大切な人です。」「ありがとう、感謝します。」こんな気持ちを相手に伝えたいと思った時に、日本人はお辞儀をします。

お辞儀というと。単に頭を下げるだけだと思いましたが、実際は使う場面や職業によって、三つの種類があるそうです。それは、「会釈」「敬礼」「最敬礼」です。お辞儀の使い分けには日本人の几帳面な性格が表れていると思います。ベトナムには日常にお辞儀をする習慣がないため、ご挨拶と言ったら単に少し頭を下げれば良いです。日本では、お辞儀をする時、頭を下げる角度や頭を下げる時間、頭を下

げる回数など、時と場合によって適切なお辞儀の仕方が異なることに驚きました。

来日したばかりの時、私は日本の見事なお辞儀を体験することがありました。それは鞆を販売しているお店での出来事でした。お店に入ったとたん、店員さんが笑顔で、九十度のお辞儀をして、「いらっしゃいませ」と言ってくれました。そこまで深くお辞儀をする人と相対するのは初めての経験で、私は慌てて店員さんと同じようにお辞儀をして「おはようございます」と言いました。その店員さんは私が頭を上げるまで待って、その姿勢を維持し続けました。そしてそれだけではなく、買い物が終わった後、私が買った物をドアまで持って行き私に渡して、もう一度九十度のお辞儀で「誠にありがとうございました。」と見送ってくれました。お辞儀、何と美しいことか！その時、私には「お客様は神様です」という店員さんの気持ちが伝わりました。外国で暮らすことは初めての経験で、不安がいっぱいでしたが、この体験をしてから、私は日本語も仕事も日本の文化ももっと頑張ってお勉強しようと思っていました。そして、その日から私は毎日できるだけ笑顔でほかの人にお辞儀をするようにしています。

最近、日本人はお辞儀というと、苦手意識を持ち、「面倒」「煩わしい」「古くさい」などという人もいると聞きました。外国人の私から見たら、日本のお辞儀はとても美しく見えるのに！日本人はもっとお辞儀の文化を大事にするべきだと思います。

国籍	ベトナム
職種	そう菜製造業
実習実施者	伊藤ハム株式会社
監理団体	情報ハイウェイ協同組合